

---

# まっすぐなあたしたちの家族模様

一河善知鳥

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

まっすくなあたしたちの家族模様

### 【Nコード】

N7532B

### 【作者名】

一河善知鳥

### 【あらすじ】

シャンプーとコンディショナーの並びから始まるあたしたちの家族模様。

あたしはお風呂に入ると、必ずシャンプーとコンディショナーの区別がつかなくなる。

えっと、青いやつがシャンプーで、水色がコンディショナーだから……って、あれ？ どっちが青あろう。

その二つはすごく曖昧な色をしていて、湯気とかシャワーの水とかで、もういったいどっちがどっちかわからない。一か八か向かって右のほうを出すとそれは必ずリンスだ。あたしはなんだかもつたいなくなつて、コンディショナー シャンプー また、コンディショナーという二度手間を踏んでしまう。なので洗い終わった後は必ず左右を逆になっている。

だけど、問題なのがお母さん。お母さんはいつもあたしよりも先に入つて、まずシャンプーとコンディショナーの位置を入れ替えてから、髪を洗う。だからあたしの努力はまったく無意味なわけで、そのくせその後にお風呂に入るとあたしはそれを度忘れして向かつて右のほうを出す。

ちなみにお父さんはあたしの後に入るので、あたしが入れ替えた後の順番を記憶している。

そこであたしはふと思った。じゃあ、もしあたしが二つを入れ替えなかったらお父さんとお母さんは間違つてしまうだろうか。二度目のコンディショナーの後にあたしはあえて何もしないでおいた。

「いやあ、参ったわ。シャンプーしようと思つたらコンディショナーだしちゃった」

「あれ、お前もか」

「ええ、あなたも？」

次の日のお母さんのお風呂あがりに二人が話してて、あたしはちょっと笑つた。

「それじゃあさ、入れ物変えようよ？」

あたしは首を突っ込んでみたけど、微笑してしまつて、

「もしかして、梨佳ちゃん…！」

お母さんがあたしに疑いの目を向ける。えへへ、とあたしは苦笑い。

「だって、どーなるかなー、なんて」

「たははは、単純な家族だな」

お父さんが笑った。

「確かにそうね」とお母さんも。

「ねー、だから入れ物買いに行こうよ」

あたしはお母さんに寄り添って言う。シャンプーのいい匂いがする。

「…なにか可愛いの見つけたんでしょ？」

「まーね」

「やっぱ、単純だなあ」

今度は三人が同時に笑った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7532b/>

---

まっすくなあたしたちの家族模様

2010年11月9日15時22分発行